

令和6年度

県政に対する意見・要望事項

富山県商工会議所連合会

日頃から各商工会議所、会員企業等が推進する事業に対し、貴重な御助言や各種支援を賜り、心から感謝申し上げます。

令和6年度富山県予算の編成に当たり、別紙「意見・要望事項」を取りまとめましたので、格別の御配意を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年12月15日

富山県知事 新田八朗 殿

富山県商工会議所連合会
会長 庵栄伸

意見・要望事項
目 次

【富山商工会議所】

- 1 県内中学校「14歳の挑戦」における「富山産業観光図鑑」の活用について …… P1
- 2 北陸新幹線「金沢-敦賀間」の開業に合わせた観光需要回復への取組
について …… P1

【高岡商工会議所】

- 3 高岡テクドーム別館の基本計画に基づく着実な整備について …… P2
- 4 JR城端線・氷見線の直通化、万葉線との一体化について …… P2

【氷見商工会議所】

- 5 「富山県中小企業ビヨンドコロナ補助金」の継続・拡充について …… P3
- 6 JR城端線・氷見線の利便性の向上について …… P3

【射水商工会議所】

- 7 観光定期路線バス「富山ぶりにバス」の通年運行及び増便について …… P4

【魚津商工会議所】

- 8 魚津水族館の老朽化に伴う建て替え及び運営支援について …… P4

【砺波商工会議所】

- 9 JR城端線・氷見線でのICカード利用の早期実現について …… P5
- 10 砺波工業高等学校の建設系学科新設について …… P6

【滑川商工会議所】

- 11 「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する
法律」に基づく基本計画の作成支援等について …… P6

【黒部商工会議所】

- 12 北陸新幹線延伸に伴う料金格差の是正への支援について …… P7

1. 県内中学校「14歳の挑戦」における「富山産業観光図鑑」の活用について (富山)

県商工会議所連合会が発行する「富山産業観光図鑑」は、毎年改訂を重ね、内容の充実や利便性の向上を図りながら、掲載施設及び発行数を増やしてきた。

県内では、大学における産業観光の講義のほか、県立高等学校で1年生全生徒向けに配布され、また、将来の自分の生き方を考える「ライフプラン副教材」で電子版を紹介されるなど、富山の産業の歴史探求や就職を見据えたインターンシップなどでも活用されてきたが、今後は、小学校高学年から中学校レベルの授業や社会見学等で活用してもらい、さらに若年段階から地域の魅力を再発見し、理解を深めていただければと考えている。

本県が全国に先駆けて平成11年に開始した中学2年生を対象とする職場体験事業「14歳の挑戦」は、今年5月に開催されたG7教育大臣会合でも紹介され、四半世紀の歴史を有する事業であるが、定着感とともに受入先などの課題があることも聞かれる。

「富山産業観光図鑑」は、地元富山の産業の歴史を解説してあることに加え、県下全域を網羅した200以上の施設が掲載されている。については、この歴史ある教育事業の新たな取組の一つとして「富山産業観光図鑑」活用し、県内各中学校が受入先の選定の参考とされるよう、働きかけをお願いします。

2. 北陸新幹線「金沢-敦賀間」の開業に合わせた観光需要回復への取組について (富山)

令和6年春の北陸新幹線「金沢-敦賀間」の開業を受けて、同年10月から12月まで、富山県、石川県、福井県を舞台に、北陸三県・北陸経済連合会とJRグループが共同で「北陸デスティネーションキャンペーン」が開催される。北陸三県のアクセスが向上することで、北陸の魅力を一体的に、より深く楽しんでもらえるよう、三県の連携を強化しなければならない。

コロナ禍を経て、人々の暮らしや旅行に関する意識は大きく変化し、「美観」「美食」「美技」「美湯」「美心」の5つの美をテーマに、古き良き「日本の美」

「北陸の美」に触れる旅や、北陸が育んできた持続可能な文化・生活を感じる旅に加え、新たなスポットや磨き上げられた観光素材を体験する旅を提供する必要がある。

さらに、新幹線延伸により実現可能となる北陸三県の広域観光でめぐる三県共通のテーマでの新しい観光を提案していくことも、新たな顧客獲得や2回目以上のリピート顧客のために重要となるので、魅力を増した北陸ならではの壮大な企画・運営により、観光需要の取込みを図られるようお願いいたします。

3. 高岡テクノドーム別館の基本計画に基づく着実な整備について（高岡）

県においては、高岡テクノドームの展示受入れ能力の限界に鑑み、また周辺道路整備や北陸新幹線敦賀延伸など立地環境の価値が向上し、交流人口も増加するとの期待から別館整備が構想され、「高岡地域大規模多目的施設あり方懇談会」などでの討議も重ねた結果、イベント、コンベンション等も行なえる機能も備えた「高岡テクノドーム別館基本計画」を策定された。

PFI手法導入もあり当初予定より1年遅れの令和5年度中完成とのスケジュールが示され、その後、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した資材・エネルギーなど諸物価の値上りを受けた予算の大幅増加など、ご尽力、ご配慮をいただきましたが、残念ながら本年5月の入札が不調となったことは周知のとおりです。

しかしながら、今後の県西部の発展に高岡テクノドーム別館の果たす役割は大きく、すでに誘致を睨んだ北陸新幹線沿線の商工会議所との交流も始まっており、速やかに別館完成に向かうべく、基本計画を維持しつつ、コストダウンと設計の見直しに着手していただくよう強く要望するものです。加えて、遅くとも令和9年度中には完成するよう格別のご配慮をお願いいたします。

4. JR城端線・氷見線の直通化、万葉線との一体化について（高岡）

JR城端線・氷見線につきましては、JR西日本と富山県や高岡市など沿線市

によるLRT化検討会での3年にわたる検討を経たのち、本年3月に新型鉄道車両導入の方向が示され、7月には再構築検討会を設置、10月にはその検討会において、あいの風とやま鉄道への経営移管が合意されました。

ついては、

- (1) 再構築検討会において鉄道事業再構築実施計画を早急に国に提出し、国の財政支援制度を活用して城端線・氷見線の直通化、利用者の利便性向上、カーボンニュートラルや超高齢社会への対応を図るべく、格別のご配慮をお願いします。
- (2) 県西部広域観光の推進を図るためにも、将来的に、万葉線と城端線・氷見線との連携・一体化が可能となるよう、準備・推進に格段のご配慮をお願いします。

5. 「富山県中小企業ビヨンドコロナ補助金」の継続・拡充について（氷見）

物価高、コロナ等の影響を受けた事業者が、自らの強みを活かして生産性向上、顧客開拓等に取り組むなど、既存事業の強化、下支えに繋げるため、当補助金の継続と予算拡充による更なる採択件数の増加、さらには事業者の実情に寄り添った補助金制度となるよう経営の多角化、新規事業への取組等様々な売上向上に向けた新たな挑戦等も対象要件としていただきますようお願いいたします。

また、企業間取引において弱い立場である小規模事業者の価格転嫁が進まず、厳しい経営業態が続いており、予算全体の中で既存の「小規模事業者枠」の増枠をお願いします。

6. JR城端線・氷見線の利便性の向上について（氷見）

JR氷見線・城端線につきましては、あいの風とやま鉄道への経営移管等の方向性が示されておりますが、氷見線・城端線の直通化、新型車両やICカード読み取り機の導入などの早期実現に向け、より一層推進いただきますようお願いいたします。

7. 観光定期路線バス「富山ぶりにバス」の通年運行及び増便について（射水）

北陸新幹線が来春敦賀まで延伸され、関西圏との交流がより活発になると期待されます。ヒトの移動が本格化するビヨンドコロナ時代に向けて「富山らしい」観光、サービス、飲食等の各地域での活性化を促す取組として、またインバウンド需要に応じるためにも、北陸新幹線各駅からの2次、3次交通の整備が重要であります。富山県の公共交通を木にたとえるなら、北陸新幹線が「幹」県内地域間をつなぐJRやあいの風鉄道、民間路線バスが「枝」市町村内のコミュニティバス等が「葉」と言われています。

北陸新幹線富山駅と新湊地区及び氷見地区を結ぶ観光定期路線バス『富山ぶりにバス』は、主に県外観光客の2次交通として、富山駅から直接、新湊大橋や海王丸パーク、雨晴海岸、そして、ひみ番屋街まで行くことができ、富山湾の魅力ある湾岸沿いを運行されており、「枝」の役割の一部を担うと思います。しかし、期間限定や少ない便数では、ビジネスや観光客の方々に周知しづらく、また、地域住民や関連事業者にも運行を知らない方が多いのが現状です。

については、現在は富山駅から10月～3月の期間限定で2往復の運行ですが、『富山ぶりに白えびバス』として通年運行及び増便を図るよう格別のご配慮をお願いします。

8. 魚津水族館の老朽化に伴う建て替え及び運営支援について（魚津）

当市の魚津総合公園内にある「魚津水族館」は、創立110周年を迎えた歴史ある水族館です。1912年に日本海側初の水族館としてオープンして以来、地元魚津のシンボルとして沢山の方々にご来場いただいております。

現在の魚津水族館は三代目で、1981年4月に現在地に移転し、日本海側最大級の水族館として新築オープンし今年で42年目を迎えますが、歴史と共に施設の老朽化も進み、建て替えが必要な時期を迎えており、市も専門家を招いての調査・検討を行っているところです。

また、水族館～米騒動発祥の地（旧十二銀行米倉庫）～魚津漁港～海の駅～埋没林博物館～経田漁港（マリーナ）と続く湾岸道路（蜃気楼ロード）は蜃気

楼の展望地点であり、湾岸サイクリングロードも整備され日本風景街道にも登録されている人気の観光スポットであり、2024年より運行開始される黒部宇奈月キャニオンルートと連携することで相乗効果が生まれ、広域観光での地域活性化に繋がると考えております。

県の観光や水産業振興の発展を図るためにも、歴史ある魚津水族館を未来に残し、今後も、「命の大切さ」や「水の世界（富山湾）の神秘」、富山の食文化の歴史を紹介するなど、入館者の増加に繋がる魅力のある施設にしていかなければなりません。

つきましては、老朽化した施設の建て替え、運営に関し、県と一緒に開発を検討、推進することについて、ご支援ご協力をお願いします。

9. JR城端線・氷見線でのICカード利用の早期実現について（砺波）

JR城端線・氷見線は、いずれ「あいの風とやま鉄道」に移管されることとなりましたが、その移管には約5年を要するとのこと。ICカード利用の実現については、従来から、行政と同様に砺波商工会議所でもお願いしてきましたが、遅々として進んでおりません。

鉄道の存続が決まり、今後経済界も「公共交通としての利用促進を訴え、従業員にも年1回を2回に、2回を3回にと利用するように働き掛けをしていきたい」と考えております。

砺波市には交通系ICカードの利用できる商業施設・飲食店・コンビニ等は多数あり、ICカードやキャッシュレス率が増加しています。その中で交通系ICカードが本家本元の交通機関で使用できないのでは、シビックプライドがそがれている感があります。

是非とも、先行して主要駅だけでも利用できるよう、県として早期実現に向けて取り組んでいただきますようお願いいたします。

10. 砺波工業高校の建設系学科新設について（砺波）

現在、砺波市には「砺波高校、砺波工業高校」、砺波広域圏には「南砺福野高校、石動高校、小矢部園芸高校、南砺平高校」があります。少子高齢化に伴い、年々子供の数も減少して、それに伴い18歳人口も減少しており、高校の再編も課題になりますが、それがいずれ大学の再編・大学数の減少にもつながっていくものと考えます。

今年度、砺波工業高校は定員割れとなりましたが、地域のニーズに合った学科として建設系学科を是非とも作って欲しいと要望いたします。工業系の高校として県立では魚津工業高校、富山工業高校、高岡工芸高校、砺波工業高校、私立では不二越工業高校があり、また、土木・建設系では桜井高校・土木科、富山工業高校・土木工学科、高岡工芸高校・土木環境科がありますが、砺波広域圏には建設系の学科がありません。

砺波地方では建設業を主としてまちづくりが進み発展してきたと認識しており、その中で建設系を志す方が基礎学力を身につけるとともに、雇用環境の改善と育成が必要です。県教育委員会で検討を進めておられるとは聞いていますが、是非とも今後の多種多様なニーズに応える高校であり、変化に富んだ教育の推進のためにも、砺波工業高校に建設系学科の新設をご検討いただきますようお願いいたします。

11. 「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律」に基づく基本計画の作成支援等について（滑川）

県では、本法律に基づく富山県地域未来投資促進計画により県内全域を促進区域として新たな付加価値額を生み出し、相当の経済的効果を創出する地域経済牽引事業を促進されているところです。

一方、滑川市においても地方創生に積極的に取り組む中で、優れた技術を持つ企業等の誘致に努めているところですが、ほぼ市内全域が農業基盤としての受益地でもあり、その誘致先となるのは農用地にならざるを得ないことから、いわゆる農振除外の要件規制等によって商工業の進出等に支障をきたすことが想定され、市勢や地域経済の発展にも大きな影響があるものと懸念しております。

そのような状況から、滑川市では本法律に基づいた農地に関する規制の特例措置の活用を図ることで地域の特性にあった土地利用を誘導するとともに、新たな付加価値額や高い経済的効果、新規雇用の創出につなげることを目的に、市独自の基本計画を作成するとのことではありますが、その作成にあたっては本法律第4条に基づき市と県が共同することとなっております。

については、この作成支援に対して格段のご配慮をお願いするとともに、県の基本計画における承認要件の見直しにあたっては、観光分野や商業関連などの分野にも対象を拡大していただきますよう併せてお願いします。

12. 北陸新幹線延伸に伴う料金格差の是正への支援について（黒部）

来年3月16日の北陸新幹線敦賀開業による新ダイヤも発表され、所要時間の短縮等による利便性の向上に喜んでおります。しかしながら、去る9月にJR西日本が特急料金の値上げを申請され、この認可が通りますと、県内3駅の中で唯一、黒部宇奈月温泉駅から関西・中京方面への料金が現行より20%以上の大幅値上げとなることが新聞報道で発表されました。

また、新ダイヤでは、東京～敦賀間の一気通貫のはくたか号は5本とのことで、大半のはくたか号は従来通りの金沢終着となる予定です。これから推察しますと、時間帯により乗換回数も現行の1回(金沢駅乗換)から2回(富山駅又は金沢駅と敦賀駅)となり、乗換時間も合わせますと現行よりも不便になることもあるようです。そこで新川地域として、朝夕の時間帯だけでも速達性のつるぎ号の長野～敦賀間の運行要望も、料金対策と合わせてJR西日本に今後お願いしたいと考えております。

北陸新幹線の開業から約9年が経過し、の間には県内3つの新幹線駅が地域交通の核となり、同様に富山県の発展に寄与してきましたが、今回の敦賀延伸では、県内駅で唯一、黒部宇奈月温泉駅だけの大幅値上げや利便性の低下につきましては、JR西日本に対して今後も新川地域として改善要望を続けていく所存です。

県におかれては、県内3駅の公平な料金体系の確立と新川地域の利便性確保のための要望活動にご理解を賜り、今後とも強力なご支援とご協力を切にお願いします。